

直近の世論調査から (2011. 7. 4)

1. 内閣支持率…昨年11月以降、8ヶ月連続で20%台に低迷。

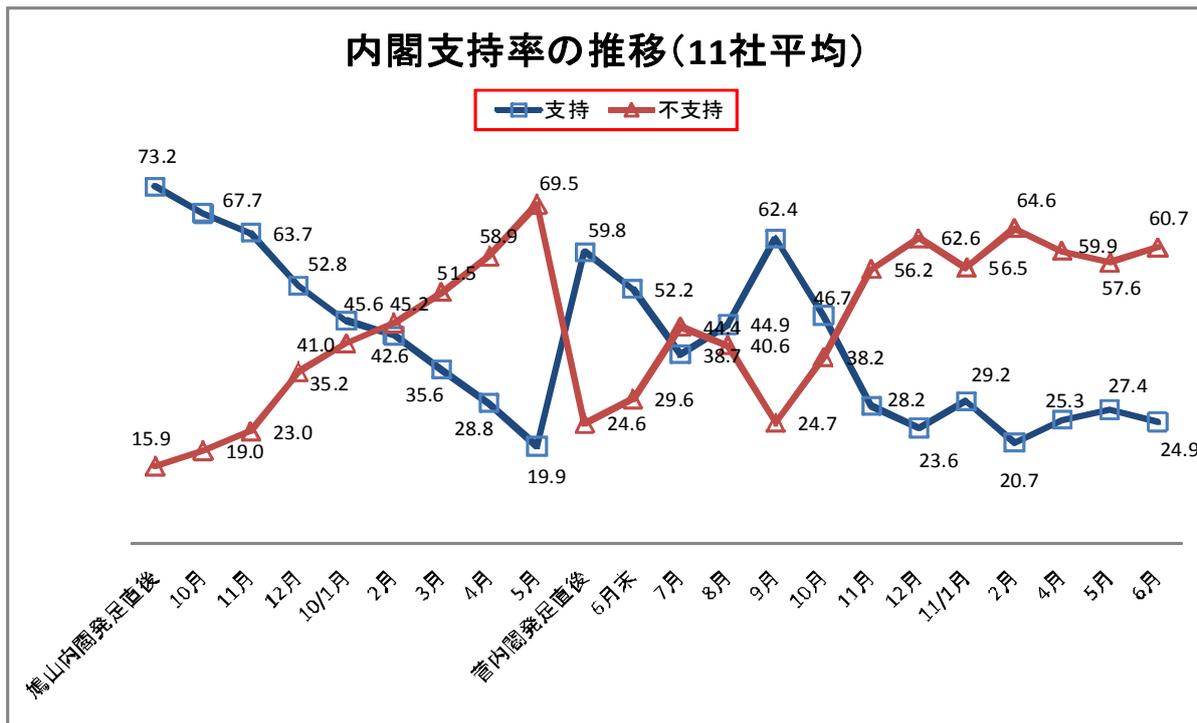
内閣支持率 6月

	支持	不支持
日経6.27	26	65
毎日6.6	24	57
読売6.5	31	59
朝日6.14	22	56
共同6.30	23.2	61.2
時事6.17	21.9	59.6
NHK6.13	25	57
JNN6.6	28.1	69.4
ANN6.6	25.2	57.6
FNN6.27	23.0	64.8
NNN6.13	24.1	60.8
平均	24.9	60.7

①あたかも「支持率なんてクソくらえ！」とばかりに猛進する菅首相に、2chでは「宰相不幸社会」とか「小沢独裁の方がまだ良かった」などとの書き込みも…。6月の内閣支持率は24.9%で、昨年11月に30%台を割り込んで以来、8ヶ月連続で20%台に低迷し続けている(3月は大震災のため定時調査を実施したのは4社にとどまった)。

②菅首相は「退陣三条件」(第2次補正予算・特例公債法・エネルギー再生法の成立)を示し、マスコミでは「小泉のマネをして、脱原発解散・総選挙に打って出るのでは？」との観測も流れ出した。そのストーリーでは「広島・長崎の日に反核・脱原発宣言を發し、8月下旬解散、9月総選挙」というものらしい。「あり得ない」「いや、やるかも？」と、先読みのできない「未曾有の事態」に民主党内外、支持者も戸惑っている声が多い。

③次ページの図にあるように、11社平均の世論調査が定着した安倍内閣以降で、最も評

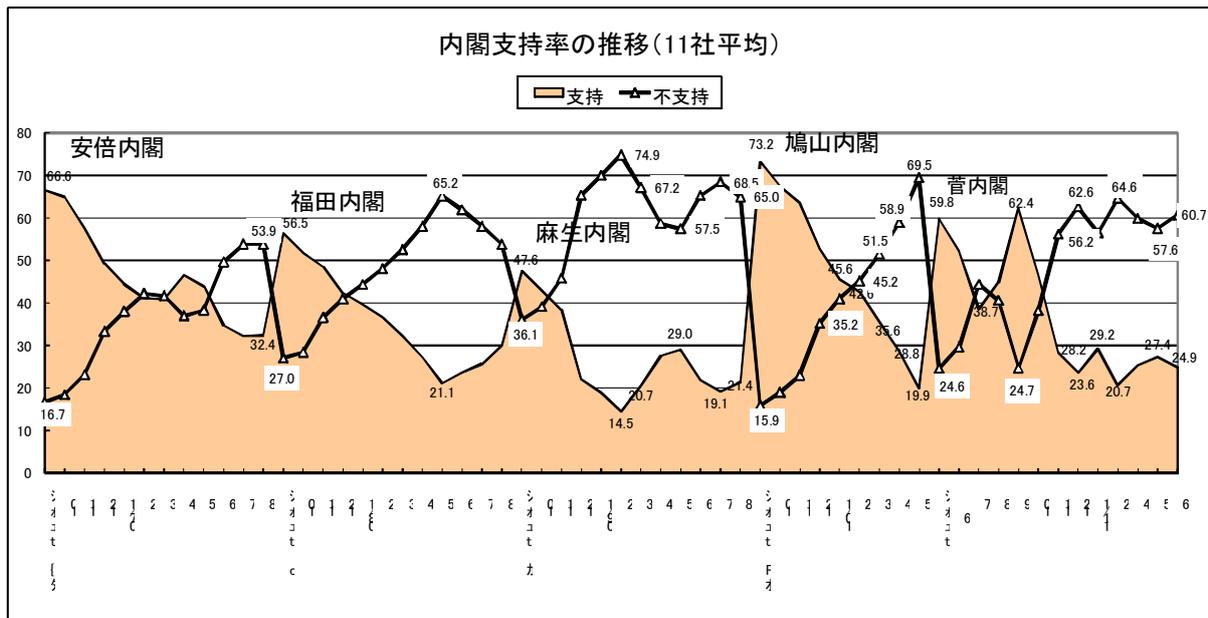


判の悪かった麻生内閣は、「危険ライン」と言われた30%を切って9ヶ月を経て解散・総選挙に追い込まれ、民主党政権樹立に道を開いた(ワースト記録は14.5%)。福田内閣の「危険ライン」時期は5ヶ月続いたが、鳩山内閣では2ヶ月。意外と、安倍内閣は一度も「危険ライン」に落ちこまぬままに退陣した。

④菅内閣は、昨年6月8日発足。7月参議院選挙で大敗(「ねじれ国会」に)するも、9月代表選挙で小沢一郎氏を破って再選し政権を維持し、発足時(59.8%)より高い支持率(62.4

%)を記録した。しかし沖縄・中国・ロシアなどとの外交問題で失速し、11月に30%を切る28.2%となった。以来、1月には内閣改造でやや上昇(29.2%)したものの、小沢問題が尾を引き低迷。3.11大震災後の政権対応にも批判が相次ぎ、4月地方選挙でも敗北。民主党内外からの「菅下ろし」に抵抗して、政権を維持している。

⑤最近の世論調査でも、菅首相の「人柄・指導力・政策・実績・原発対応」等々については7～8割の人が批判的であるのだが、唯一「首相の原発依存からの脱却方針」については7割が「評価する」と答えている。この辺りが菅首相の支えになっているのかもしれない。



2. 政党支持率…昨年12月に自民>民主に逆転。いまだ回復せず。

政党支持率 6)

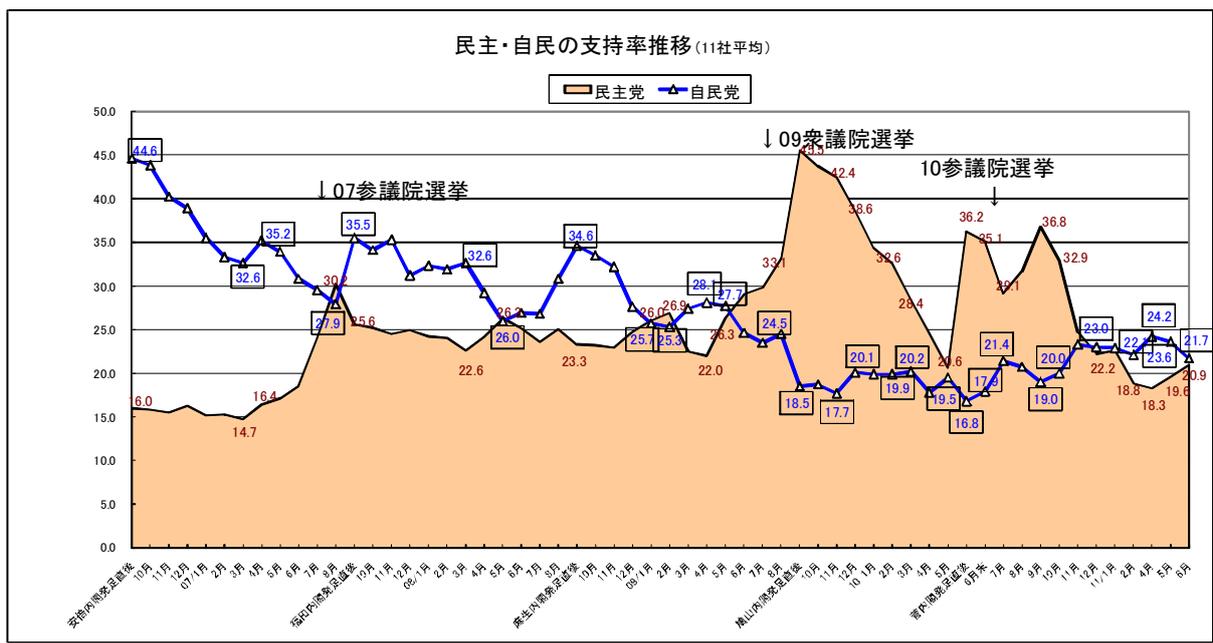
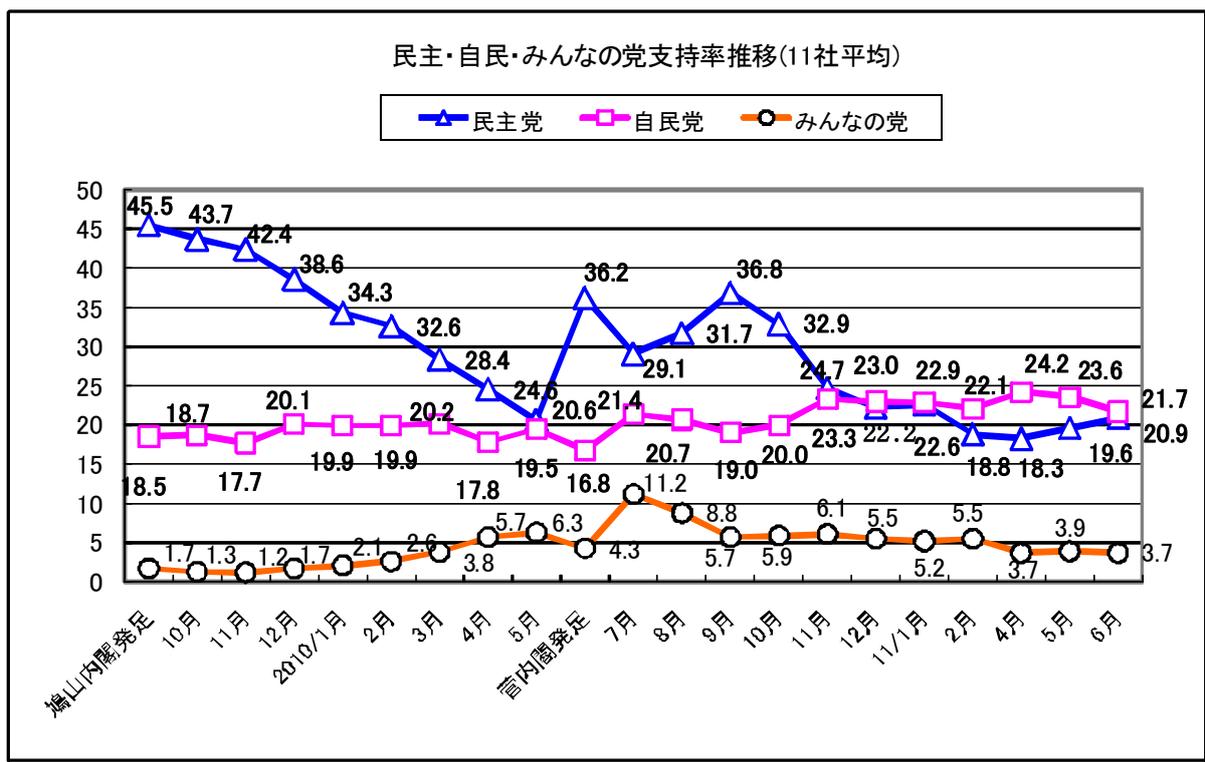
	民主	自民
日経6.27	28	31
毎日6.6	15	17
読売6.5	25	19
朝日6.14	19	16
共同6.30	21.9	22.8
時事6.17	12.8	14.6
NHK6.13	20.4	21.1
JNN6.6	19.5	18.8
ANN6.6	24.8	31.0
FNN6.27	18.0	19.0
NNN6.13	25.5	28.2
平均	20.9	21.7

①政党支持率も昨年12月に民主党22.2%、自民党23.0%と逆転して以来、7ヶ月連続で自民党に逆転を許してきている。今月の調査では、一時は逆転するかに見えたものの、結果的には、民主党は20.9%にとどまり、自民党も21.7%に下がった。

②一方の自民党も政権転落以降、次凶を見て分かるように、20%前後で低迷している。一時、民主党の不人気の受け皿となるかと噂されたみんなの党も、昨年の参議院選挙時に記録した11.2%をピークに現在では11社平均で4%弱で推移し、支持率としては公明・共産並みになっている(比較的高い数値を出しているのは日経、毎日、共同、FNN)。

③民主党の支持率は、一昨年の政権奪取(鳩山政権発足)直後に一挙に45.5%に急上昇したが、この数ヶ月はだいたい2割前後で自民党と均衡するような状態が続いている。政権獲得によるバブル人気はなくなっただけでなく、政権獲得の前にはあった「期待値」(選

挙時には無党派層の支持を受けた) がなくなった分だけ厳しくなったといえるだろう。



3. 原発は「減らす」50%、「全廃」は12%。「段階的に廃止する」が74%

① 3.11 大震災後は、原発をめぐる情勢が急転した。「それでも原発推進」と考えている人は、6社平均で、4月で6.6%、5月には3.3%へと半減した。「現状を維持する」との考えも、45.4%から32.7%に減少し、反面、「原発を減らすべき」と答えた人は33.9%から50.0

%に上昇。ただし全廃論は、11.7%と11.6%だから、ほとんど変化が無い。

原発	推進	現状維持	減	全廃
読売4.4	10	46	29	12
ANN4.11	7	45	38	
毎日4.18		40	41	13
朝日4.18	5	51	30	11
NHK4.18	7	42	32	12
FNN4.25	4.2	48.5	33.3	10.5
平均	6.6	45.4	33.9	11.7

朝日6.14	
1	原発を利用することに—賛成37%、反対42%
2	原発を再開することに—賛成51%、反対35%
3	原発を段階的に廃止する—賛成74%、反対14%
4	自然エネルギーは将来原発に代わるか —そう思う64%、そう思わない24%
5	電気料金が高くなっても自然エネルギーの割合を —増やすべき65%、増やすべきでない19%

5月	推進	現状維持	減	全廃
毎日5.16		31	47	12
読売5.16	4	34	44	15
NNN5.16	1.8	24.0	64.3	4.6
ANN5.16	4	39	52	
FNN5.30	2.7	33.3	48.9	12.6
JNN5.9	4	35	44	14
平均	3.3	32.7	50.0	11.6

② 6月に入ってから同種の調査は減ったが、朝日は上記のような調査を行っている。原発を利用するか否かでは答えは拮抗するが、将来的には「脱原発」の世論は固いようだ。

4. 衆院比例投票…自民優勢のまま、6月は「民主へ」22.7%、「自民へ」25.7%

衆院比例投票は

12月	民主へ	自民へ	み党へ
読売12.5	22	26	9
朝日12.14	23	27	8
FNN12.13	25.9	28.4	16.1
平均	23.6	27.1	11.0

1月	民主へ	自民へ	み党へ
読売1.16	21	26	9
朝日1.17	23	27	7
FNN1.16	24.5	30.0	15.0
毎日1.16	25	30	11
平均	23.4	28.3	10.5

2月	民主へ	自民へ	み党へ
読売2.3	19	27	7
朝日2.21	19	25	6
FNN2.28	21.8	27.4	14.8
毎日2.21	21	26	15
平均	20.2	26.4	10.7

3月	民主へ	自民へ	み党へ
読売3.7	17	26	7
時事3.12	15.2	25.8	7.9
平均	17.0	26.0	7.0

4月	民主へ	自民へ	み党へ
朝日4.18	18	30	5
FNN4.25	21.6	31.2	10.6
平均	19.8	30.6	7.8

5月	民主へ	自民へ	み党へ
読売5.16	15	29	4
朝日5.16	22	28	5
FNN5.30	25.8	29.4	11.0
平均	20.9	28.8	6.7

6月	民主へ	自民へ	み党へ
読売6.5	22	24	3
朝日6.14	20	24	3
FNN6.27	26.0	29.0	12.4
平均	22.7	25.7	6.1

① 民主党への期待が失われてきた昨年の暮れ頃から、早々と次期の衆議院選挙では「どの党に投票するか」（比例代表）という調査も出始めた。

調査主体が2社から4社と少ないし、毎月平均を出すには不揃いな傾向もある。今月は接近しているが、全般的に民主党には不利で、自民党に優勢のまま推移している。3月と4月は、10%前後にも広がり、これが4月地方選挙の結果を予測できるものであった。

② 今仮に総選挙が行われるとしたら、「民主党は敗北するが、自民党が勝ったとも言えない」結果になるだろう。そこで「新党は？」ということになるのだが、一時期は、受け皿と期待されたみんなの党も減少傾向にある。

